

はばたき

大分大学教育学部
附属小学校便り
平成29年6月22日号

教育実習を終えて

教育実習主任 小畑 典子

5月の連休が明けてから、実習Bが始まりました。37名の学生を教育実習生として受け入れ、6月の初旬に3週間の教育実習を終えることができました。本校においては、卒業後に教壇に立ったときに役立つための「実践力を高める」教育実習を大学と連携しながら行っています。

近年の大分県においては、ベテラン教職員の大量退職の時代を迎えています。そのため懸念されるのが教育の質の低下と教育への情熱をもった若手教職員の人材の確保の問題です。これは、大分県の教育課題でもあり、これからの解決に向けて、教職員の人材育成が大きなカギとなっています。我が附属小学校においても、近い未来大分県の教育を担う教育学部の学生を教育実習生として受け入れ、卒業後の実践の場で活用できる実習内容の在り方を検討しているところです。

今回の実習Bでは、「実践力を高める」という視点で以下の3つに重点を置き取り組んできました。

I 大学において教材研究と指導案作り

学年部から指定された教科(単元)に焦点をあて、大学の先生方と教材研究と指導案作りを行います。専門性の高い大学の先生方の指導を受けながら教材を解釈し、より質の高い授業づくりを目指して指導案を作成していきます。

実習が始まってからは、その指導案と児童の実態を合わせながらより学びのある授業づくりへ修正し、実際に授業を行いました。授業後は担任から指導を受け、さらに授業改善を進めていきました。

II 半日・一日担任業務

昨年度から始まった取組の1つです。本校では、実際に教壇に立ち担任業務を経験することで、自己の課題や今後の見通しをもち、卒業後に教師として指導するイメージを具体化できると考え、担任としての業務を実習生が交代で行っています。

少し引き締まった表情で教壇に立ち、真剣に指導しようとする姿に児童からも「先生頑張ってる！」と励ましの言葉も出てきていました。

III 分析の視点を持って授業観察

実習中は実際の授業を観察し、気づいたことを記録していきます。本校においては授業観察の視点を明確にし、その視点についての授業記録を取りながら分析と考察を行います。



その記録をもとにしながら、放課後の学年指導の時間では、自分の分析したことを話し合ったり、担任へ質問をしたりしながら授業に対する見方・考え方を高め、学びを深めていきました。記録の中の児童の姿をもとにした話し合いは非常に活発であり、とても有意義な学びの場となっていました。

こうした活動を通して、実習Bでの終末反省会では、学年ごとに「授業」「子どものかかわり」の2つの視点について成果と課題を出し合いました。自分の授業実践を振り返りながら担当学年の児童の姿を思い出し、笑顔で話し合う学生の姿にこの3週間の実習における学生自身の成長や経験を通してからこそ得た自信のある姿を感じることができました。これは実習を通して児童と出会い、共に過ごしていく中で、指導する立場へと着実に歩み出した姿であったようです。「子どもと共に歩む教育」の原点を学生自身が実感できるような、教育実習の実現を今後も目指していきたいと思えます。



お知らせ

【一時帰国子女及び外国人の体験入学について】

海外の学校で過ごしている児童が、夏休みに一時帰国した際に附属小学校に体験入学をします。附属小学校の児童も、海外での居住経験のある児童との交流を通して、異なる国や地域の伝統や文化を理解し、自国の伝統や文化に対する理解を深めることができます。

- ・4年生 女子(アメリカより) 6/21~7/20
- ・4年生 男子(上海より) 6/27~7/20